

地域教材を通して平和を考える

内灘試射場反対のたたかい

1、対象学年

小学校高学年~中学校

2、内灘闘争とは

- ・内灘村民の生活を守る闘いであった
- ・全国の反戦・反基地の闘いのさきがけであった
- ・朝鮮戦争を機にした日本の再軍備、独占資本復活政策の犠牲であった

3、闘争の経緯

第2次世界大戦が終わったころ、内灘村（今の内灘町）の人たちはほとんどが漁業をしてくらしていました。しかし、このころの村では近くの海で魚が獲れず、多くの漁民は県外へ出かせぎに行っていました。村の人々は、内灘の砂丘地を国に払い下げてもらって、植林や土地改良などをして緑の畠に変え、野菜を育てたり魚を獲ったりして豊かなくらしの村にしたいと考えていました。

1949年に石川県が「この砂丘地を内灘村に払い下げる」ことを決めました。村民たちは早く払い下げてもらおうと、いっしょに植林をしてがんばりました。

ところが、1952年9月、朝鮮戦争の影響を受け、この砂丘地がアメリカ軍の砲弾の試射場に使われることになってしまいました。土地が払い下げになるものと思っていた村は大騒ぎになり、地元の村民やまわりの金沢市、宇ノ気町、七塚町でも反対運動が起こりました。

1953年2月、試射場の予定地には鉄さくが張りめぐらされ、アメリカ軍の宿舎が建ち、鉄板道路が作られ、3月には大砲を打ち出す音が内灘海岸にひびきわたりました。砲弾は向ヶ崎から発射され、5kmはなれた権現森までとどきました。発射される時の音は10kmはなれた宇ノ気から七塚まで聞こえました。

5月になり、試射は一時中断されましたが、政府は引き続いて使用することに決定したため、村民の反対運動はますますはげしくなりました。東京都内でデモを行ったり、兼六園では全国から1万人が集まり基地反対の国民大会が行われました。また、試射再開の前日の6月14日からは、村民700人が権現森と米軍キャンプの入り口で座り込みに入りました。座り込みには、老人や子どもも参加し、10月4日まで130日間闘い抜きました。

試射場、砂丘地の払い下げを早く実行することや道路の整備、農地の開拓などを条件として3年間使用されることになりました。

4、授業案

(1) ねらい

- ・ねらい 内灘の人々が試射場に反対した実態を知り、その理由を考える

(2) 展開例

学習活動	児童の意識や活動の流れ	教師の働きかけ
1、何の写真か考える	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさん的人が歩いている ・何かを持っている人もいる ・何かのパレードかな ・反対と書いてあるよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真①を提示する 【資料1】 ・人や持っている物などからいろいろ考えさせる
2、内灘闘争について知る	<ul style="list-style-type: none"> ・石川県内灘であったことだ ・大砲の試し打ちがされたなんて信じられないな ・たくさん的人が反対のデモをしたんだ ・子どもも参加したんだ ・おじいちゃんやおばあちゃんは知っているかもしれないぞ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「闘争の経緯」を読んでどんなことが起きたか知らせる ・内灘の場所を地図で確認する
3、試射場に反対した理由を考える	<p>〈内灘の人々はどうしてそれほどまでして試射場に反対したのだろう〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大砲の弾が飛んできて危険だ ・魚がとれなくなる ・畑仕事ができない ・勉強ができない ・危険で遊べない <p>絵地図に試射場の区域を色ぬりする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内灘のほとんどが試射場に使われている ・土地がなくなってしまう ・これでは生活できない 	<ul style="list-style-type: none"> ・当時の小学生の作文を読み、子どもの立場から反対の理由を考えさせる。 【資料2】 ・絵地図の試射場の部分に色ぬりをして区域の大きさをつかませる 【資料3】
4、まとめる	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 内灘の人々は生活を守るために、命を守るために試射場に反対したんだ </div>	

(3) 授業の取り扱いについて

- ①6年、中学校の「朝鮮戦争」や「基地問題」を関連させて学習する
- ②特設授業として学習する

(4) 資料

【資料1】試射場反対のデモ①



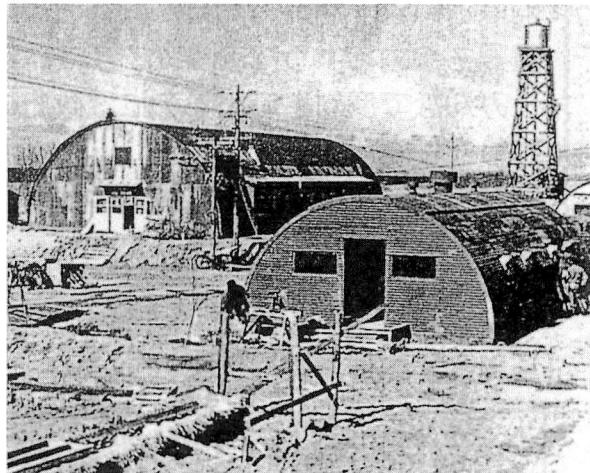
権現森に座り込む子どもたち②



怒る女性たち③



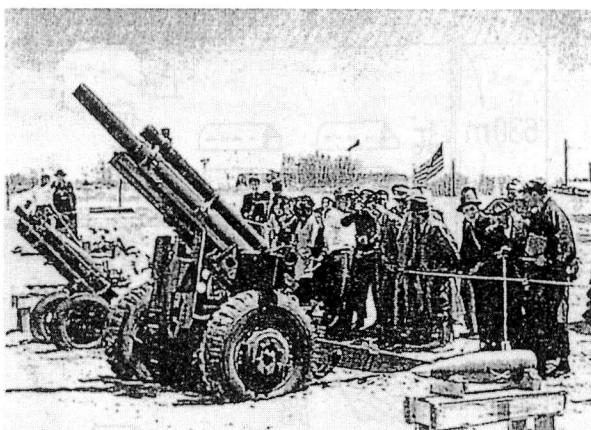
建設が進む試射場④



試射場を囲む鉄条網⑤



アメリカ軍の155ミリ大砲⑥



写真②から⑥は授業の中で隨時使ってもよい

【資料2】小学生の作文より

土曜日の半日と日曜日は大砲をうちませんが、ふだんは朝8時から午後5時まで大砲の音で勉強もできません。ぼくたち5年2組は二階の教室なのでひびきも大きいので、算数とそろばんの時間が一番いやです。

ぼくたちの村では遊び場もないで、学校がすむと今試射場になっているところがぼく達の野球をする一番の所なのです。この前の日曜日にみんなで行きましたが、鉄じょう網を五段にはり、その間をななめにまたはってあるのを見てもうぼくらの好きな野球もできなくなり、さみしくなりました。

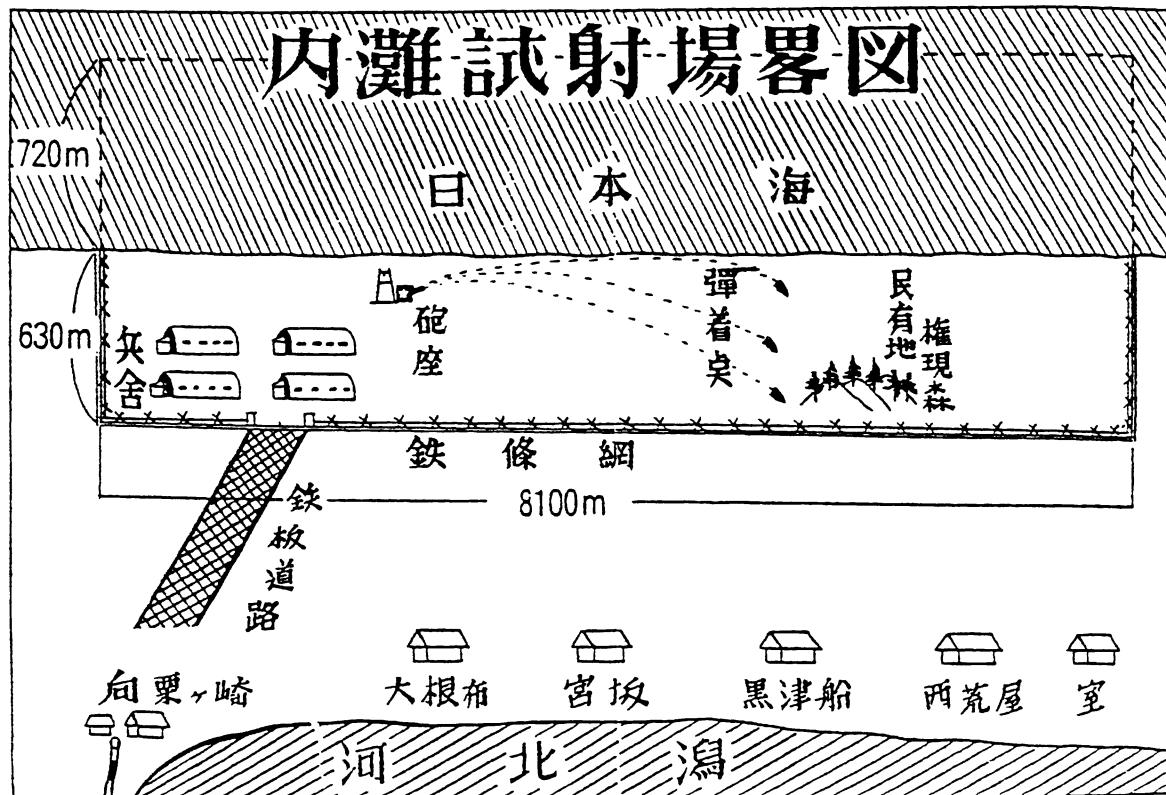
もう夏休みになるが、今年から泳げなくなるのが、野球をできないより残念です。夏休みになると、お父さんもひまをもらって5、6人の友だちど毎日海へ行くようです。あさりを取り、かにをおい、帰りに貝のかずとりには、ぼくとはじめくんがいつも一番です。

ぼくの家の畠は鉄じょう網より200mほどはなれているのですが、たまの落ちるのがちょうど畠の上なので一発ごとにびっくりします。にわとりが五十羽ほどいますが、だんだん卵をうまなくなり、お母さんも（お母さんの仕事）養鶏もやめるようになっています。

みんなで反対しているのに、政府の人がどうしてむりに試射場にするのかわかりません。

この間、左の手を不発弾でけがをした敏治さんは友だちです。指が全部とんでもなくなりかわいそうです。

【資料3】試射場の絵地図



試射場の略図

【資料4】試射場反対年表

1950	6月	朝鮮戦争が起こる
1952	9. 20	政府から内灘砂丘地を在日米軍の砲弾試射場にしたいという話があり、それについて内灘で話し合いが行われる
	9. 21	内灘村で緊急に絶対反対を決める
	9. 22	内灘村長、政府に接収反対を伝える
	9. 26	県知事に接収反対を伝える
	10. 6	村長、東京へ行き反対を伝える
	11. 15	県農林部長、「接収の可能性が大きい」と発言する
	11. 20	内灘村民1000名、県庁ヘデモを行う
	11. 25	政府が抜き打ちに試射場接収を決定する
	11. 26	内灘婦人会1000名、県知事に反対を伝えた後、金沢市内でデモを行う
	11. 29	大臣と接収について話し合う
	11. 30	冬の間、4ヶ月の使用を認める
	12. 17	内灘村に5500万円の特別補償金が与えられる
1953	1. 27	大臣が石川県に来て、試射場の期間の延期を話す
	3. 1	内灘村で「試射場は一時使用か、永久使用か」が問題となる
	3. 18	午前9時40分、第1弾が発射される
	5. 1	試射一時中止になる
	5. 30	兼六園で永久接収反対の石川県民の大会が行われる
	6. 2	政府が試射場の永久使用を決める
	6. 3	村民大会を開く
	6. 14	権現森と米軍キャンプ場入り口で村民のすわり込みが始まる
	6. 15	試射が再開される
	7. 7	北鉄の組合が軍の物資の輸送をことわる
	7. 8	内灘婦人会が国会前にすわり込む。 朝鮮の人が内灘村のすわり込みに参加する
1954	5. 15	試射場の一般公開が行われる
	6. 26	米軍の試射場使用は57年1月31日までと決まる
1957	1. 30	試射場の返還が正式に行われる

【資料5】「内灘闘争50周年を迎えて」より（抜粋）

日本の民衆が、国に向かって、「私達は、絶対に反対です！」と声を上げ、「米軍試射場の反対」に立ち上がったのです。

この内灘村民達の勇気ある行動は、『内灘闘争』と言われ、まさに、この日本が、『国民こそが、国の主人公である。』『民主国家』として、生まれ変わる大きな第一歩であったのです。